

「第 11 回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議」

令和 2 年 9 月 17 日（木） 13 時 00 分
都庁第一本庁舎 7 階 大会議室

【危機管理監】

それでは、第 11 回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議を開始いたします。

本日も、感染症の専門家といたしまして、東京都医師会副会長でいらっしゃいます猪口先生、それから、国立国際医療研究センター国際感染症センター長でいらっしゃいます大曲先生のお二人にご出席をいただいております。

お二人の先生からは、後程、モニタリング項目の分析につきまして、ご説明をいただく予定にしております。よろしくお願いいたします。

それから、本日につきましては、タブレットを使いまして、資料の配布をさせていただきます。

皆様のお手元には、次第と、それから、座席表と、あとはモニタリング分析の総括の 1 枚ペーパーをお配りしております。

タブレットにつきましては、事務局の方で操作をいたします。

なお、先生方ご説明の際に、もし表示してもらいたいようなところがございましたら、おっしゃっていただければ、事務局の方で表示をいたしますので、よろしくお願いいたします。

会議の次第につきましては、お手元に配付しておりますペーパーに従って実施をいたします。

意見交換につきましては、いつものように、モニタリング分析と、そして、都の対応というところで、二つに区切って実施をいたしますので、よろしくお願いいたします。

それでは早速でございますが、次第の 2 項目目、「感染状況・医療提供体制の分析の報告」につきまして、まず「感染状況」について、大曲先生からお願いいたします。

【大曲先生】

国際医療研究センターの大曲と申します。

「感染状況」について、まずは分析結果をご報告します。

総括であります。今回は、4 段階の上から 2 番目「感染の再拡大に警戒が必要であると思われる」ということで判断をしております。

新規の陽性者数が、今回高い水準のまま増加に転じております。この増加傾向が更に続きますと、急速に感染拡大することが強く危惧されるという状況にあるということで、今回は判断をしております。

具体的な内容について申し述べます。それでは、タブレットの資料をもう 1 枚おめくり

ください。

ということで、「感染状況」であります。

9月17日のコメントであります。新規陽性者数の7日間平均は、前回の9月9日の約149人から、9月16日時点で約181人に増加し、この増加比ですが、前回の81.1%から16日時点の122.0%に反転しております。100%を超えております。

新規陽性者数は、まだ高い水準のままなのでありますが、増加比が100%を超える値に変化しております。これは、新規陽性者数が急速に増加していくことを意味しております。

新規陽性者数は、週当たりでいきますと、1,000人を超える。これは高い水準で推移しております。更に増加傾向が続くことに対して、厳重な警戒が必要と考えております。

現在も医療機関で、職員や入院患者さんの新規陽性者は発生しています。ただ、第一波の頃のような大規模なクラスターの発生は見られておりません。

これは、各対策に当たられている方々の努力によって、院内感染の防止対策が功を奏していると考えております。

また、PCR検査の増加による陽性者の早期発見と、感染の拡大防止、都民の方々のご協力、そして各業者の方々によるガイドラインの徹底、様々な取組が行われております。

こうした取組を引き続き継続していくと、この必要があると考えております。

また、年代別の状況であります。8日から14日までの報告であります。10歳未満が1.9%、10代が4.2%、20代が23.9%、30代が24.1%、40代が19%、50代が13.3%、60代が5.7%、70代が3.6%、80代が3.0%。90代以上が1.3%であります。

9月1日から9月7日までと比べますと、変化としては20代以下の割合は減少しております。ただ一方で、30代から50代の割合は増加しているという状況でございます。

濃厚接触者における感染経路を見ていきますと、全世代の合計で、同居する人からの感染が、前週の37.4%から今回は32.9%に低下しております。ただ、依然として最も多いという状況であります。これに次ぐのが職場でありまして13.5%、その次が施設でありまして13.2%、そして、会食が11.6%、接待を伴う飲食店等が5.9%という順でございました。

今週の濃厚接触者における感染経路別の割合を年代別で見参ります。

前週と同様、80代以上除く全世代で、同居する人からの感染が最も多かったと。

これを10代以下で見ると、同居する人からの感染は前週の54.4%から68.5%に、これは大きく増加しております。

保育園・学校等の教育施設での感染は、これは逆に、先週の27.9%から16.7%に減少しております。

同居する人からの感染であります。20代から30代は28.5%、40代から70代は32.5%であります。

ただ一方で、80代以上では、施設での感染が75.7%と最も多い状況であります。

その次に、同居する人からの感染が13.5%ということで続いております。

ということで、今週の状況としても、同居する家族からの感染というものが多数報告され

ています。

一度持ち込まれてしまうと、家庭内に持ち込まれてしまうと、その中で広がり止めるとするのは、極めて難しいというのが現実だと思います。

ですので、持ち込まないように、家族以外との交流における感染対策、ここをしっかりとやっていくということが重要だと思いますし、特に、ご自宅、あるいはご家族に、重症化するリスクの高い高齢者がいらっしゃる場所では、ご家庭では、日常的な感染防止対策が極めて重要と考えております。

では、タブレットを1枚おめくりください。新規陽性者数について継続いたします。

家族以外でこういったところで感染するかというところではありますが、友人との会食、あとは、大人数によるパーティー、あるいは接待を伴う飲食店、ナイトクラブ、ジム、職場、病院やデイケア施設等におけるクラスターの発生例が、今回報告されています。

今週なのですが、会食で感染した人は、前週は41人だったのですが、今回67人に増加しております。

今後の流れとして、23区内における営業時間短縮要請の解除があるわけですが、それに伴って、友人や職場の同僚等との会食の機会は増えると考えています。

少人数であっても、人と人がいわゆる3密の場において、会話や飲食をしますと、感染のリスクが高まるということは、もうこれはよくわかっているところでありまして、こうした行動を取る場合には、このような環境を避けると、リスクを下げ、基本的な感染対策を行っていくということが重要と考えています。

もう一つ、特別養護老人ホームや、介護老人保健施設、デイケア施設、訪問看護、病院、こういった場には、重症化のリスクの高い方が多くいらっしゃるわけなのですが、こうした場で無症状あるいは症状の乏しい職員を発端とした感染が、多く見られております。

重症者を出さない、あるいは亡くなる方を出さないという意味ではこうしたところでの対策は非常に重要である。厳重な警戒が必要でありますし、高齢者の感染予防を目的とした検査体制の拡充が必要であります。

症状がある、例えば、入居者の方がいらっしゃる。あるいは職員の方に症状があるといった場合に、すぐ検査が届くような体制が必要と考えています。

今週の新規陽性者を、これは地域ごとで見ていきます。

前週の1,032人から1,234人に増えているわけですが、保健所別の届出数を見ていきますと、大田区は98人、これは7.9%と最も多く、その次に世田谷区が来ます。95人、7.7%、次に新宿区で70人、5.7%、足立区が68人、5.5%、江戸川区が58人、4.7%の順であります。

島しょでも7人、0.6%の感染者が出ておりまして、感染の広がりには都内全域であるというところがございます。

2点目、「#7119における発熱等相談件数」、この7日間平均は、前回の57.6件から、9月16日時点での54.9件、これは横ばいでもございました。

それでは、タブレットをもう1枚おめくりください。

3点目、「新規陽性者における接触歴等不明者数・増加比」であります。

この数でありますけれども、感染の広がりだけではなくて、この接触歴不明な方の、実は内実としては、陽性判明前に潜在するクラスターを形成している可能性がある。

つまり、この中にクラスターが隠れているのではないかということを考えていまして、そのために見ているというところがございます。

今回、この数は7日間平均で、前回の約82人から、9月16日時点の94人に増えております。約94人ですね。増えております。非常に高い水準のまま増加に転じております。

ですので、今後の動向について、厳重に警戒する必要があります。

また、これだけの数の方を、接触歴を調査するというのは、大変な作業でありまして、これを行っていくための保健所への支援が必要でございます。

新規陽性者数における接触歴等不明者の増加比は、100%を今回は超えたわけですが、これは増加傾向を示す指標であります。

9月16日時点での増加比は、前回の75.8%から大幅に上昇しまして、114.6%でありました。8月11日に100%を下回って以来、約1ヶ月ぶりに100%を超えております。新規陽性者が依然多い状況であります。

その中で、接触歴不明の方の増加比が100%を超えて、再び増加に転じております。

ですので、今後の急速な増加が強くと危惧されると、そういう状況にあります。

感染経路、接触歴等不明な者の割合ですが、前回55.3%でございましたが、今回9月16日時点では51.9%と減少をしております。

私からは以上でございます。

【大曲先生】

大曲先生、ありがとうございます。

続きまして、「医療提供体制」につきまして、猪口先生からご説明お願いいたします。

【猪口先生】

東京都医師会の猪口です。よろしく申し上げます。

では、最初のコメントシート表を見せていただいて、「医療提供体制」の方の総括コメントは、「体制強化が必要であると思われる」ということで、従来通りの「橙色」、上から2番目の「橙色」にしております。

理由につきましては、詳細のお話をしてからまた話をさせていただきます。

では、コメントシートの方に、④のところまでいただけていますか。「検査の陽性率(PCR・抗原)」に関してであります。

最初、2と3を読みます。7日間平均の陽性率は、前回の3.5%から9月16日時点の3.5%と、横ばいでした。

平均の検査人数は、前回の 4,122.4 人から 9 月 16 日時点の 4,064.6 人と、僅かに減少いたしました。

PCR 検査は、抗原検査もですけれども、迅速かつ広く PCR 検査等を実施することによって、感染拡大防止、それから重症化予防、双方に効果的と考えております。

ということで、(4)になるのですが、新規陽性患者数が増加に転じております。

感染リスクが高い地域や、集団及び重症化するリスクが高い高齢者施設などに対して、感染拡大抑止の観点から、無症状者も含めた集中的な PCR 検査を行うなどの戦略を検討する必要があります。

(5)です。次のインフルエンザ流行期における発熱患者の増加が想定されますが、季節性インフルエンザと新型コロナウイルス感染症を臨床的に鑑別することは困難であります。

このため、発熱患者の相談・検査・診療フローの作成や、検査体制の強化をする必要があります。そして今、検討しているところであります。

⑤です。「救急医療の東京ルール適用件数」です。9 月 9 日以降、平均 40 件以下で推移しており、横ばいでありました。

⑥に行きます。「入院患者数」です。

(1)、9 月 16 日時点の入院患者数は、前回の 1,248 人から 1,149 人となり、増減を繰り返しながら、依然として高い水準にあります。

今週の新規陽性者数及び接触歴等不明者数の増加比が 100%を超えましたので、入院患者数が急増することへの厳重な警戒が必要であります。

2、3、4、5 は、大事なことなのですけれども、毎回繰り返しておりますので、ぜひご確認いただいて、(6)に行きます。

今週の新規陽性者 1,234 人のうち、無症状の陽性者が 18.0%を占めています。

宿泊療養施設は 3,044 室を確保していますが、9 月 16 日時点の宿泊療養施設の利用者は 272 人であり、自宅療養者は 409 人でありました。

入院、宿泊及び自宅療養者の状況を把握・分析し、次のインフルエンザ流行期における感染者の再増加への備えを具体的に検討する必要があります。

宿泊療養施設の一部で、英語による対応や、IT の活用、オンラインでの健康観察、こういったことの体制を整えております。

(9)、保健所から入院調整本部への調査依頼件数は、1 日 50 件程度で推移していますが、その内訳としては、受入先の調整が特に難しい、緊急性の高い重症患者や合併症を有する患者の依頼件数の割合が増加しており、質的に見ても、調整にかかる負担は依然として多くあります。

(10)です。入院調整の結果、入院先医療機関が決定した後、キャンセルは 1 割程度発生しています。

⑦「重症患者数」です。東京都は、その時点で人工呼吸器又は ECMO を使用している患者数を、重症患者数としていますが、前回の 24 人から、9 月 16 日時点の 23 人となり、ほ

ば同数であります。

新たに人工呼吸器を装着した患者は 9 人であり、人工呼吸器から離脱した患者は 7 人、人工呼吸器使用中に死亡した患者は 2 人でありました。

(3)です。9 月 16 日時点の重症患者数は 23 人、年代別内訳は、30 代が 1 人、40 代が 2 人、50 から 60 代が 15 人いまして、60 代以下が 78.3%です。

30 代に 1 人、40 代に 2 人っていうところは、気にすべき点だと思います。

陽性判明日から重症化までは平均 3 日、軽快した重症患者における人工呼吸器の装着から離脱までの日数の中央値は 7.0 日でした。

新規陽性者数は高い水準のまま増加に転じました。新規陽性者数の増加から遅れて重症者数は増加しますので、今後の重症者数の推移に警戒が必要であります。

7 番です。重症患者及び死亡者は 50 代以上が多数を占めており、これらの増加を防ぐためには、引き続き、家族間、職場及び医療・介護施設における感染防止対策の徹底が必要であります。

ということで、またコメントシートに戻っていただいてよろしいでしょうか。

ずっと患者数、新規陽性者数は減少していてですね、今週の時点で反転して、増加して参りました。

まだ患者数としては増えておりませんので、矢印は横ばいとなっておりますけれども、入院の患者数は高い水準で推移したまま反転しました。

医療機関は、ほとんど一息つくということがないまま、次のインフルエンザに対しての対応を迫られる状態になったことが、ほぼ確定したのではないかなと思います。

ということで、コメントに書いてある通り、医療機関への負担が長期化している状況に変わりはない。

入院患者数、重症患者数の今後の推移に警戒が必要であるということで、「橙」、継続とさせていただきます。

以上です。

【危機管理監】

猪口先生ありがとうございました。

それでは、3 項目目になります意見交換に移ります。

まず、ただいまご説明のありましたモニタリング項目の分析に関しまして、何かご質問、ご意見等ある方いらっしゃいましたらお願いいたします。

知事から何かございます。

【都知事】

無症状者が 18%からまた少し拡大しつつある件ですが、これは、検査をより多く進めていることによって、そうやって、確保されているというふうに理解してよろしいのでしょうか

か。

【大曲先生】

詳細な一例一例までは見られていないのですが、この状況で無症状者が多いということになると、おそらくは、まずは有症状者が見つかるという中で、おそらく、接触者調査の中で見つかってきた方の数を、おそらく反映していると思っています。

その中で、今週はちょっと増えて見えているというところです。

そういう意味ではちょっと、一例一例の状況を見ないと細かくは申し上げられないというのがあると思います。

【猪口先生】

あまり有意な数字ではないと思います。検査数ともいろいろ関わってくる話ですから。

【危機管理監】

ありがとうございました。

それでは、都の対応というところで何かご意見等ございましたらお願いいたします。

よろしいですかね。

それでは、本日のモニタリング会議のまとめといたしまして、知事からご発言をお願いいたします。

【都知事】

本日、猪口先生、大曲先生、お忙しいところご出席を賜り、また、今回の7日間平均の分析等、コメントも賜りまして誠にありがとうございます。

先生方から「感染状況」については、4段階のうちの3段階目で「オレンジ色」、「感染の再拡大に警戒が必要であると思われる」との総括コメントを頂戴いたしました。

「医療提供体制」については、同じく3段階目で、「オレンジ色」の「体制強化が必要であると思われる」との総括コメントいただきました。

「感染状況」についてはまず、新規陽性者数、高い水準のまま増加に転じていること、更に増加傾向が続くと、急速に感染拡大が強く危惧される状況であると分析をしていただいております。

そして、年代別では30代から50代の割合が増加をしていること。

感染経路については、前週と同じように、80歳代を除くすべての年代で、家庭内での感染が最多になっている。

80代以上では、施設での感染が最多であるということ。それから、重症患者数については、増減を繰り返しながら、ほぼ同数、横ばいであるということ。

新規陽性者数が高水準のまま増加傾向に転じたことによって、今後の推移には警戒が必

要だと、このように分析していただきました。

なお、重症患者と死亡者については、50代以上が多数であるとのこと指摘をいただきました。

これらのご指摘を踏まえまして、改めて都民の皆様方をお願いを申し上げます。

都民の皆様方には、友人との会食、職場、施設など、あらゆる場におきましての感染防止対策を徹底していただきたい。

そして、家庭内への感染を持ち込まないようにご注意をいただきたいと思います。

マスクの着用・消毒・換気など、これはもうずっと最初から基本的な対策だということで、聞いております。このことの徹底をお願いいたします。

また、会食については、長時間の飲食・飲酒、そして大声を出したり、至近距離での会話を控えるなど、これについても、毎回お願いしているところでございます。

それから家庭内の感染、これを防止するために、特に同居家族に高齢者がいらっしゃるご家庭では、帰宅、家に戻ると手を洗う。それから、日用品を別々にするなど、対策を万全にしていきたいと存じます。

それから、今日、木曜日で、この週末からは、またシルバーウィークということになります。少しでも体調が優れない方は、ぜひとも外出はお控えをいただきたい。

それから外出の際には、ご自身の感染防止対策に万全を期していただく。そして、お出かけ先の対策にも、ご協力をいただきたいと思います。

「医療提供体制」については、いただきましたコメントを踏まえまして、引き続き体制の強化を図って参ります。

患者の受入れ体制ですが、2,800床の確実な確保に向けまして、都内医療機関に依頼をいたしております。

現在のところ、2,600床、重症用が150床、中等症用が2,450床となっております。

また、宿泊療養施設であります。26日には、新たに1施設を開設する予定としておりまして、更なる活用を進めて参りたいと考えます。

そして、都民、事業者の皆様方には、これまでも大変ご協力をいただいて参りました。感謝を申し上げたいと思います。

さらに、お一人おひとりの「新しい日常・正しく予防」、この行動が感染拡大を防ぐ大きな力になりますので、皆様方には、引き続きのご理解、そしてご協力をお願いいたします。

私から以上であります。

【危機管理監】

ありがとうございました。

以上をもちまして第11回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議を終了いたします。